

学校概要

創立 50 周年	学校長 荒井 健	副校長 岩澤 尚彦	学期 2 学期制	児童・生徒数 665 人
学級数 一般級: 20 個別支援級: 3		主な関係校: 篠原中学校・篠原小学校・港北小学校・六角橋中学校		

学校教育目標

～健康でかがやく子～

- 自ら学ぶ子 (知)
- 豊かであたたかい心をもつ子 (徳)
- 健やかに成長する子 (体)
- 共に生きる子 (公)
- 広い視野のもてる子 (開)

学校の特徴

- 新横浜駅南側の閑静な住宅地に位置し、落ち着いた環境の中で素直な児童が多い。
- 保護者・地域は学校に対して好意的であり、学校行事への参観・参加状況や授業参観の状況などで学校への関心が高くなる。
- 永年、健康教育に力を入れており、自己の健康管理を家庭と連携して「健康貯金ファイル」の取組を続けている。
- 平成24年度から高学年で一部教科担任制を実施し、小中連携の充実を図っている。
- 「生活意識 自己意識調査」結果から、自己肯定感を高める取組が必要であることが明らかになった。

学校経営中期取組目標

- 豊かな学びの環境づくりと授業の充実への取組を組織的に進め、子どものよりよい成長を実現していきます。
- 一人ひとりの気持ちに寄り添った教育活動を展開し、子ども一人ひとりが安心して豊かに学校生活を送ることができるようにします。
- 「健康貯金ファイル」などの健康教育の推進を通して、自らの健康の保持増進を図ることができるようにします。
- 「すこやかサークル」を軸にした教育を継続・発展させ、子どもたちを地域の中で育てることで、まちを愛する心を育てます。

小中一貫教育の取組

篠原中	ブロック	篠原中学校・篠原小学校・篠原西小学校・港北小学校
9年間で育てる子ども像	地域活動や社会奉仕活動に積極的に関わり、地域に貢献できる子ども ～響き合う心、生きる力にあふれる子・健康でかがやく子・チャレンジする子～	
自校の具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロックでの公開授業研を通して、教育課程や指導内容の見直しを図ることで、小中連携の一層の充実を図る。 ・児童生徒交流日の活動に向けて、児童生徒の思いを大切にすることで、主体的な交流を工夫する。 ・篠原中学校の合唱コンクールでの金賞学級(中3)の発表を聴くことで、中学生への尊敬する気持ちを育てる。 ・教務主任会や専任会などで得た情報をもとに、「西小ルールブック」の改善を図る。 	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	基礎・基本の定着に重点を置くとともに、「自己表現力」を重視した授業を取り入れ、主体的に問題解決していく姿を目指す。	①TT指導、教科担任制などの授業形態を、学年の実態に応じ、効果的に取り入れて行くことで基礎・基本の定着を図る。②重点研究を通し、教員一人ひとりの授業力を高め、言語活動と体験活動の充実する授業づくりに取り組み、児童の自己表現力を育成する。③地域の力を生かした生活科や横浜の時間の充実を図る。
豊かな心	よりよい人間関係を築いていこうとする姿を価値づけるとともに、子どもの自尊感情を育て、自分を大切にすることを育てる。	①たてわり活動の充実やなかよし給食などの実施を通して、異年齢同士のつながりを築くようにする。②「すこやかサークル」の活動や地域行事などへの参加を通して、まちの人々とのふれあいを大切にして、豊かな心を育てていく。③特別な教科「道徳」、学級指導を中心にあいさつ運動をさらに推進していくことで、より気持ちのよい生活の実現を図る。
健やかな体	基本的な生活習慣の定着を図るために、「健康貯金ファイル」の取組の充実を図り、自らの健康を意識した生活が送れる態度を育てる。	①「健康貯金ファイル」を中心に様々なテーマでの保健指導を推し進めていく。②様々な活動を通して「体力向上一校一実践」を意識する。③保護者と連携し「子どもたちの睡眠」について考えていく機会を多くもつようにする。④心の健康にも着目し、健康相談を丁寧に行い、連携をとり対応していく。⑤食育に関する授業を栄養職員と連携しながら行う。
児童理解	「西小ルールブック」を共有し、全教職員が同じ視点で指導や支援ができるようにする。また、いじめの防止・早期発見に努める。	①「西小ルールブック」の確認を随時行い、より児童の実態に応じた指導ができるようにする。②毎月行う職員会議で、児童理解に関する情報共有の場を設定するとともに、課題の共有を適宜行うことで、全教職員で指導内容や対応の方法を確認できるようにする。③いじめ調査や児童の学校評価、教育相談を定期的に行うことで、児童の状況を的確に把握し、対応に連携できるようにする。
特別支援教育	専門機関との連携や、研修の充実により、教職員の意識、指導力を高め、誰もが安心して学習できる環境を整える。	①ATの確保等、限られた人員の中でのサポート体制の維持・継続を図る。②研修を充実し、研修で学んだことを日常指導での実践に有効につなげていく。③各学級の教室環境を見直すことで、ユニバーサルデザイン教育についての理解を深める。また、学習環境の改善を図る。
地域連携	「すこやかサークル」の活動を全教職員で共有し、より多くの大人で地域に住む子どもを育てる環境を整える。	①年4回の「すこやかサークル」の会合への参加を分担することで、ディキャンプ・すこやか祭り・音楽交流会への全教職員での参画を継続する。②「しのはら地域支援本部」の活動を知り、地域連携の取組の理解を深める。③定着化してきた「ボブラ隊」の活動を継続し、学習などへのボランティアの協力を募り、協働できるようにする。
いじめへの対応	教職員みんなで児童を見守り、一人ひとりに寄り添った児童理解に努め、誰もが安心して生活できる環境を整える。また、道徳教育、人権教育の充実を図る。	①児童の心の動きをとらえるため、いじめに関するアンケート(年2回)や、教育相談を行う。②「特別な教科道徳」において、児童に自己を見つめ、より多角的・多面的にとらえ、自らの考えを深める力を育む学習を用意する。③人権に関する研修の充実により、教職員の人権感覚・人権意識を高め、児童一人ひとりの人権感覚・人権意識の向上につなげる。

人材育成・組織運営	教職員の専門性を高めるための研修やメンターチームの主体的な活動を充実させることで、教師力の向上を図る。	①重点研究と、メンターチーム研修をタイアップすることで、学年、ブロックを中心とした授業力向上と人材育成に取り組む。また、新学習指導要領実施に向けたカリキュラム作りに取り組む中で人材育成を図る。②他校授業研究会参加は、引き続き奨励していく。③学年主任会を年間数回設定し、互いに情報交換を行うことで、全員で学校全体を見ていく姿勢をより強
担当	教務部	